

臨床実習

[実習] 第4学年 前期 必修 8単位

《担当者名》○澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 武田涼子 阿部隆宏 中村宅雄 吉田晋 小島悟 鈴木英樹 高橋尚明
大須田祐亮 長谷川純子 佐々木祐二 山根裕司 岩部達也 只石朋仁 多田菊代 佐藤一成 谷口翔平 用田歩

【概要】

これまでに学習した専門知識および臨床実習における経験をもとに、特に理学療法評価、理学療法プログラムの立案と実施、理学療法実施後の再評価および報告、理学療法プログラムの追加変更の主眼をおいた実習を行い、実際の医療機関での症例担当を通じて総合的な理学療法のプロセスを経験する。さらに担当症例のレジュメ作成や報告、チーム医療体制の経験・情報交換などを行うことで、医療専門職種としての総合的な役割を理解する。

【学修目標】

基本的理学療法をある程度の助言・指導のもとに行えるために、実際の対象者に対し、評価や治療を実施する機会をできるだけ多く経験し、理学療法士として必要な基本的評価・治療スキルを向上させる。

1. 指導者が実施している基本的検査・測定技術について監視下・助言にて実践することができる。
2. 指導者が実施している疾患別検査・測定技術について協同参加（参加率：75%以上100%未満）にて実践することができる。
3. 指導者が考えた理学療法における認知プロセスについて協同参加（参加率：75%以上100%未満）にて理解し、口頭や文書によって説明することができる。
4. 指導者が実施している基本的治療技術（低リスク）について協同参加（参加率：75%以上100%未満）にて実践することができる。
5. 指導者が実施している基本的治療技術（高リスク）について協同参加（参加率：25%以上50%未満）にて実践することができる。
6. 医療従事者を目指す学生としてふさわしい行動ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	オリエンテーション	・臨床実習の日程と進め方について ・臨床実習の課題と提出方法について ・臨床実習の評価方法について	澤田篤史 武田涼子 阿部隆宏 中村宅雄
	臨地実習	医療機関における臨床実習を通じて基本的理学療法技術を身につける	臨床実習指導者
	客観的臨床能力試験（OSCE）	総合臨床実習終了後の技術面の客観的評価を行う	全担当教員
	学内セミナー	臨床実習で経験した内容をもとに、実習において成長したと感じる点や今後の課題について、および臨床実習で得た情報について、学生間で共有し学びを深める	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習日誌30%、SOAPノート30%、客観的臨床能力試験（OSCE）40%で評価する。

【備考】

「臨床実習の手引き」を配布する。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、準備をしておくこと。実習先の施設の特性（病期や主な対象疾患など）について事前に調べ、必要な知識、技術の整理をしておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

(2026年度・リハビリテーション科学部)

(DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を
実践できる能力を身につけている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している